

担当講師



日向野幹也 (ひがの みきなり)

【プロフィール】

東京大学経済学部、同大学院博士課程修了、経済学博士(東京大学)。1983年4月から2005年3月まで、東京都立大学経済学部にて講師、助教授、教授として勤務。2005年4月立教大学に移籍し、日本初の学部学生向け必修のリーダーシップ・プログラム BLP の立ち上げに準備段階から携わり、専攻を経済学からリーダーシップ開発にシフトした。2006年4月、立教大学経営学部 BLP 初代主査に就任。以後2017年3月まで11年間 BLP の拡充に専心した。

2011年文科省・日本学術振興会の「教育 GP」の成果審査により全国トップ15に選定され、同年日本アクションラーニング協会の年間賞も受賞。2013年全学部学生向けの立教 GLP を開始。2014年アクションラーニングを大学教育に広範に活用した業績が認められて世界アクションラーニング機構(WIAL)からアカデミック部門年間賞を受賞。2016年早稲田大学に移籍しリーダーシップ開発プログラム(LDP)を立ち上げる。2017年10月前年度の授業「他者のリーダーシップ開発」について、早稲田大学ティーチング・アワードを受賞。同年早稲田大学職員研修も開始。2018年5月 WASEDA NEO『21世紀のリーダーシップ開発』を稲垣講師とともにスタートし、岩城講師を加え、好評のうちに今回第5期生募集に至る。

【現職と資格】 早稲田大学グローバルエデュケーションセンター教授、経済学博士、日本アクションラーニング協会シニア・アクションラーニング・コーチ、世界アクションラーニング機構(WIAL)認定グローバル・AL コーチ、International Leadership Association (ILA)理事(Board Member)。

【主要著作、メディア掲載記事】

- ・『大学発のリーダーシップ開発』(編著)、ミネルヴァ書房、2022年3月刊行予定。
- ・『高校生からのリーダーシップ入門』、ちくまプリマー新書、2018年。
- ・日本経済新聞連載、やさしい経済学『変わるリーダーシップ』、2018年10-11月。<https://www.nikkei.com/article/DGKKZO36579120X11C18A0KE8000/>
- ・『大学教育アントレプレナーシップ いかに関リーダーシップ教育を導入したか』(共著)、増補版、日本学術出版、2017年。
- ・「新しいリーダーシップ教育とディープ・アクティブラーニング」、松下佳代編著『ディープ・アクティブラーニング』第9章、勁草書房、2015年。



稲垣憲治 (いながき けんじ)

【プロフィール】

広島大学卒業。1988年株式会社日立情報システムズにて営業職を経験。1990年ユニリーバ・ジャパン株式会社に入社。社内IT部門にてプロジェクトマネージャーとしてIT化を押し進める。その間、イギリス・シンガポールにて合計約3年半の海外赴任を経験。イギリスでは、イギリス人マネージャー・同僚と販売予測システム導入プロジェクトを推進。シンガポールではアジア地区IT統括センター立ち上げにマネージャーとして参画。シンガポール人、マレーシア人、インド人など多国籍の部下をまとめ、部門目標を任期中連続達成。2002年から人事人財開発マネージャーとして社員教育・採用・人事制度改革に従事。教育制度の改革、採用教育の刷新、新人事制度導入フェーズの設計・実践など、数々の改革を行い、ユニリーバ変革の一翼を担った。2005年株式会社ベンチャー・リンクに

転職。子ども向け『7つの習慣』等、教育プログラムの開発に携わる。2006年ユニリーバに戻り、北東アジア担当人財開発マネージャー就任。グローバル教育チームの日本・韓国担当マネージャーとして、イギリス・南アフリカ・インドなどのマネジメントチームと連携をとりながら、担当2国の人財開発・教育プログラムのグローバル化を推進。2008年香港上海銀行にて人財開発マネージャーに就任。グローバルの施策に合わせつつ、日本のビジネス環境に特化した、有益なプログラムを行うべく、香港のリージョナルチームとコミュニケーションをとりつつ、社員教育の新しい体系作りに従事。グローバルプロジェクトである、社員満足度調査・後継者計画などを各国と協調しつつ精力的に展開する。2010年9月、経験を活かし、グローバル人財育成コンサルタント・コーチ・研修講師として独立。

【現職と資格】

一般社団法人日本快眠協会理事(2020-)、共立女子大学非常勤講師(2020-)、全米NLP協会公認NLPトレーナー、米国NLP&コーチング研究所公認NLPプロフェッショナルコーチ、デール・カーネギー・トレーニング公認トレーナー、日本アクションラーニング協会認定ALコーチ

【主要著作、メディア掲載記事】

- ・日向野幹也編著『大学発のリーダーシップ開発』第8章、ミネルヴァ書房、2022年3月刊行予定。



岩城奈津（いわき なつ）

【プロフィール】

同志社大学文学部卒。国内大手電機機器メーカー営業職勤務、日米経営科学研究所(JAIMS)企業派遣等を経て、1996-2004年渡英。英国国立ウェールズ大学カーディフ校ビジネススクール経営学修士(MBA)、博士課程単位取得後退学。専門は組織行動論。(株)クオリア設立に関わり、以来2018年3月まで12年間ダイバーシティ&インクルージョンコンサルタントとして組織開発、リーダーシップ開発に従事。2018年4月より現職。

【現職と資格】

共立女子大学ビジネス学部専任講師、早稲田大学リーダーシップ開発プログラム(LDP)非常勤講師(2017年度-)、立教大学グローバルリーダーシッププログラム(立教GLP)GL111コースリーダー(2017-2021年度)、国際ファシリテーターズ協会(IAF)日本支部代表(2014-2020)および認定プロフェッショナルファシリテーター・CPF(Certified Professional Facilitator)、WIAL(国際アクションラーニング機構)認定グローバルALコーチ、日本アクションラーニング協会認定シニアALコーチ。

【主要著作、メディア掲載記事】

- ・日向野幹也編著『大学発のリーダーシップ開発』第6章、ミネルヴァ書房、2022年3月刊行予定。
- ・「女子大におけるリーダーシップ開発」、『ビジネス学研究叢書』第2章、ウィズ・ケイ、2019年2月。
- ・2014年3月10日付『The Japan Times』キャリアインタビュー記事。

http://info.japantimes.co.jp/works/201403/career_development.html

◆今欧米から日本にも普及しつつある「21 世紀型リーダーシップ」は、経営者や管理職にとどまらず、若年世代から教育・開発を始めるほうが、人材育成にかかる費用対効果が良いとされています。また、このリーダーシップスキルの開発は、集合研修のあとに、職場でも継続的に開発を続けることでさらなる効果が期待できます。ため、受講者は、インハウスで業務を行ないながら職場内における他者のリーダーシップ開発支援ができる人材として活躍できます。そのためには、自分のリーダーシップを開発するだけでなく、他者のリーダーシップ開発を支援する方法も体得するプログラムとなっています。

◆本プログラムは他者のリーダーシップ開発のツールであるアクションラーニングとコーチングについて経験豊富な三人のファシリテータによって行われます。

日向野講師は、2006 年から主に 20 代の若者を対象にアクションラーニングと PBL（課題解決型学習 Project-Based Learning）によって自己と他者のリーダーシップを開発するプログラムを展開してきました。その功績によって、2011 年に日本アクションラーニング協会、2015 年には世界アクションラーニング機構から、それぞれ年間最優秀賞を授与されています。

稲垣講師は、日向野講師とともに若者のリーダーシップ開発に携わり、エグゼクティブを含む企業人リーダーシップ研修を長年行ってきた実績があります。

岩城講師は、認定プロファシリテーター、国際アクションラーニング認定コーチ/日本アクションラーニング認定コーチの資格を持ちながら、学生から社会人まで幅広くリーダーシップ開発を行ってきました。

◆本プログラムを優良な成績で修了した方には、翌年度から、土曜中心に本プログラムにおける「ジュニア・ファシリテータ」として、実地で参加し、受講者のリーダーシップ開発実地練習に参加できる特典が与えられます。これは、本プログラム受講終了後に、自身の職場に戻りメンバーのリーダーシップ開発支援を行うための大変有意義な準備になります。